

ぴか! 創

令和4年度 図工・美術部報
発行：11月28日(月)

心豊かな生活を創造していく子供を目指して

岡崎市現職研修委員会図工・美術部
部長 安藤 眞樹

晴天のもと、2日間の「第59回造形おかざきっ子展」が、無事終了しました。3年ぶりの野外展は、約7万人の来場者がありました。

開催中、市内の子供たちの作品をじっくり鑑賞でき、とても幸せな時間を過ごしました。そして、会場のあちらこちらで聞こえてくる会話に、さらに幸せを感じました。

「この作品は、ここを工夫したんだよ。強そうなかぶとにしたいから、飾りをとげとげにしたんだよ。色だっていろんな赤色を使ったんだよ。」

「〇〇ちゃんすごいね。おじいちゃんはこんなふうには作れないな。すごく強そうだな。」

「この作品、〇〇さんの作品だよ。この色使い〇〇さんらしいね。優しい感じが出るね。」

「そうだよね。〇〇さんだから作れる作品だよ。」

すべての子供が芸術家になることはないでしょう。ただ、中学校の学習指導要領の目標の一つに「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」とあります。創造活動を通して、自分の生活をより豊かにできる子供になってほしいと願っています。会場で、作品を前に交わされた子供たちの会話には、思いや意図を大切に作品づくりを楽しんだ姿や、作品からその背景にいる人を感じ取る姿がありました。こうした姿こそ、これから生きていく子供たちにとって大切な、「生活を豊かにしていく」姿であったと思います。

終わりになりますが、「おかざきっ子展」開催にあたり、日々の授業において子供たちの作品づくりを支援いただいた先生方や搬出入のお手伝いをいただいた教職員・保護者の皆様、そして、多くのご支援をいただいた関係機関の皆様方に改めて感謝申し上げます。

～造形おかざきっ子展 開会式での作品紹介～



第59回造形おかざきっ子展が10月15日(土)16日(日)に行われました。開会式では、代表児童生徒の3人が、自分の作品についての思いを語ってくれました。

作品名「形埜の自然を見守る夏オオルリ神」

形埜小学校 5年 今井 虎士朗 さん

ぼくは、形埜の自然がこれからも美しく残ってほしいという願いを込めて、この作品に「形埜の自然を見守る夏オオルリ神」とい名前をつけました。夏っぽさを出せるように、スパッタリングやデカルコマニーの技法で花や草を美しく表現したり、オオルリを宙に浮かせて森を見守っているようにくふうしたりしました。



作品名「家康も食べたくなる！天ぷら兜」

岩津小学校 6年 小嶋 十呼 さん

家康について調べてみると、家康は天ぷらが好きで、天ぷらの食べ過ぎが死因ではないかという説があることを知りました。そこで、天ぷらをモチーフに兜を作ろうと考えました。

作品の注目してほしいところは、絶対に正面の立物の天ぷらです！家康がこの兜を被ったら、よだれが垂れること間違いなし！です。戦っている最中にお腹が空いて力が出ないという緊急事態が来ても大丈夫！この天ぷら兜の天ぷらを食べればいいんですから！！



作品名「殿に献上 われらの扇」

六ツ美中学校 3年 佐藤 碧衣 さん

おかざきっ子展のテーマを受けて、六ツ美中3年生のテーマは「殿に献上 われらの扇」に決まりました。私は殿に献上する扇に佐藤の家紋を入れました。生まれ育った岡崎を大切に思う気持ちが込められています。そして岡崎のきれいな桜を、少しでも多くの人に見てもらうため桜をモチーフに選びました。桜の花だけでなく、つぼみも入れることで、桜は咲き続けると思うので、いつまでも岡崎の桜はきれいだと思っしてほしいなと思います。



～野外展での造形おかざきっ子展を終えて～

「先生、今朝、行ってきた。おかざきっ子展にお母さんとお父さんと一緒に行ってきたよ。」部活動のために休日登校した児童が駆け寄ってきました。「私たちの兜が、光ってたんだよ。」5年生の児童は、薄い金属板を組み合わせて、オリジナルの兜を作りました。思えば制作中はもちろん、完成した互いの作品の鑑賞会も室内で行っていました。初めて晴天の野外に飾られた自分の作品が、朝日に照らされて輝くを見て、とても嬉しかったと言っていました。「ずっと向こうまで続いていて、すごかったよ。」興奮気味に言葉を続ける児童の姿に、野外で行われるおかざきっ子展の感動を改めて実感しました。
(梅園小学校 吉田 真由子 先生)

2年ぶりの野外展ということで、少し不安を抱えながら、おかざきっ子展が始まりました。雨風に強い作品の構想を練るのはもちろん、展示台の準備から、展示計画まで、やりながら感覚を取り戻す日々が続きました。中学校は、美術科の授業時間が少ないので、作品づくりは時間との戦いでもあります。普段はおしゃべりが好きな子供たちも、作品づくりになると一言も話さずに作品づくりに熱中します。そこには、限られた時間の中でも、最後まで手を最大限に動かし、表現したいイメージを形にしようとする子供たちの姿があります。その作品がおかざきっ子展の会場に並んだ時、青空とのコントラストでさらに輝いて見えました。子供たちの作品には、人の心を動かす力があると改めて実感しました。
(葵中学校 浅井 優子 先生)